



中川 あゆこ 議員

地方創生について、行政の姿勢を問う

問 高島市の住民福祉を向上

させる気概は日々どれくらいあるか

答

住民福祉の向上は地方自治の本旨であり、常に心掛けるべきと認識しています



問 高島市の安心・安全な公共交通のために、リーダーシップをとる気概はあるのか。

答 都市整備部長

公共交通のマスタープランを作成しており、その中でも関係機関との調整、状況把握に努めています。当然、公共交通の交通整理は都市整備部がさせていただきます。

問 市長、副市長と、市民や議員との意見交換や交流について。

答 市長

市内の各団体の方々からいろいろのご要望やご提案をいただきます。公共性・公益性・緊急性・非代替性等の観点、高島市にプラスになるのか等、様々な角度から判断し、私の考えをお伝えさせていただいています。議員の皆様とは、まさに、この議会の場で執行部と議論を交わし、双方から政策提案をし、大いに政策議論、激論を交わすべきと考えます。

問 挑戦への認識は。

答 総務部長

高島市職員行動宣言にもあるように職員は常に改革意識を持ち、前例踏襲にとらわれず、チャレンジ精神を持って果敢に新しいことに取り組んでいます。高島リビング・シフト構想をはじめとする新しい施策にも積極的に取り組んでいます。

問 市民の声に十分応えられているか。

答 総務部長

令和2年度の市民ニーズ調

査では、ほとんどの項目で満足度が向上しています。要望内容に応じて適切な対応に努めています。

問 難しいと思うより、できるかもしれないという考え方に

ついて。

答 総務部長

行政全般の多くが法令、条例、規則による適否を判断するものですが、実情に合わない場合は、条例改正など実現するための方策も必要と認識しています。

問 高島リビング・シフト構想に載っていない市民アイディアへの対応は。

答 政策部長

市民お一人お一人のご意見には真摯に向き合っているつもりです。全てのご要望に配慮されているとは言いきれませんが、私たちは多くの市民の方から幅広いニーズや考え方を把握することに努め、最終的には総合的に判断、決断していくことが求められていると認識しています。